

『新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム』の設立について

1. 趣旨

もがみ地域理解プログラム（高校生に分かりやすく伝えるため「ジモト大学」と呼称）は、人材育成に関する最上地域政策研究所の施策提案を受けて、提案実現を試みる形で平成29年度に事業化されました。

事業内容は、管内の高校生を対象に、地域の大人との対話を通して地域の現状や課題について学ぶプログラム（ワークショップ等）を実施するものです。平成29年度は、12のプログラムを実施し、延べ244人の高校生が参加しました。参加した高校生のアンケート結果からは、地域社会への興味が深まり、進路選択の手掛かりになったことがうかがえます。2年目の今年度は、21のプログラムを用意し、高校生の参加者数は延べ418人となり、取組みは広がりをみせています。

若者の地元定着のためには、地域の魅力や課題を知ってもらうことが大事であるため、来年度以降、高校生が地域の大人と対話するプログラムである「ジモト大学」を本格的に事業展開してまいりたいと考えております。

「ジモト大学」の取組みを今後さらに充実強化するためには、高校と市町村をはじめとする地域の関係者の間で継続的に緊密な連携を行い、地域が一丸となって取り組んでいくことが必要です。そのための基盤として、地域の関係者により構築するコンソーシアムを新たに設置し、来年度以降、このコンソーシアムを事業推進主体として取組みを展開してまいりたいと考えております。

2. 構成団体（案）

管内高等学校、管内市町村、高等教育機関、社会教育機関、民間団体、産業界、最上総合支庁

3. 組織体制（案）

- ・総会（最高機関：構成団体の代表者で組織）事業計画、予算・決算等の決定
- ・運営委員会（構成団体の実務責任者で組織）事業の企画運営
- ・部会（必要に応じて設置）
- ・事務局会議（事務局を担う実務担当者で組織）
- ・ジモト大学サポーター（事業に協賛する企業・団体・個人を登録）

4. 事業計画（案）

プログラム実施運営・管理、研修実施、情報発信・共有、フォーラム開催等

以上